

5分でできる！ みんなで理解する特別支援教育
コピーフリー研修シート 2020年 No.1

下敷きなどで隠したものを下へずらしながら研修をしていくと効果的です！

研修1 ワーキングメモリを理解しよう！



イラスト：しもかわらゆみ
『TOSS 特別支援教育』FBより

- 1) ワーキングメモリは、次のように言われています。□に言葉を入れましょう。

脳の□□帳

ワーキングメモリは、脳への「入力」「出力」の仲介をしています。
ここに問題があると脳に入力する（記憶する）ときも、脳から何か出力するとき、つまり、行動を起こすときもエラーが生じやすくなってしまいます。

- 2) ワーキングメモリは大雑把に言って2つの機能をもっています。□に言葉を入れましょう。

□□記憶□□する力

まずは「短期記憶」です。短い間覚えておくことができる記憶のことです。その記憶の箱は、小5～6で4つ程度もつことができます。しかし、発達凸凹があるとその記憶の箱を1つしかもつことができません。そのため覚えておかなければならないことを次々に忘れてしまうことになります。しかし、これはやる気がないのではありません。脳機能の問題なのです。
もう一つは「集中する力」です。ワーキングメモリが高いと、1つのことや作業・学習にしっかりと集中することができます。しかし、ワーキングメモリが弱いと、どこに集中していいのが混乱したり、次々に集中する場所を変えてしまうということが起こったり、逆に「1つのことに集中しすぎてしまう」「過集中」が起こったりするのです。

- 3) ワーキングメモリの弱さに対する配慮はどのようにすれば良いのでしょうか。
□に言葉を入れましょう。

提示する情報を□□

集中できる□□を整える

忘れていたら□□□に何度も伝える

まずは提示する情報を「絞る」ことです。多くの情報を提示してしまうと、混乱のもとになります。「一時に一事を指示する」という言葉があるように、「できるだけ簡潔に一つのことを伝える」ことが優しい対応となります。これは「視覚情報」でも同じです。教科書や学習で掲示するものなどは、できるだけ情報を絞ったものにしましょう。次に「集中できる環境」を整えることです。普通学級であれば「机の上に置いてあるもの」をできるだけ少なくするだけで集中しやすい環境になります。筆箱の中身をシンプルにするだけで集中が途切れないこともあります。

最後は、「叱らず」に何度も伝えることが大切です。叱っても脳機能の問題なので、治ることはありません。叱られたという感情が残ってしまい、やる気が削がれます。何度も優しく伝えてあげてください。